

## 第 11 回消化管 CT 技術研究会に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

またまた消化管 CT 技術研究会の話題です。前回の第 10 回記念大会はインナービジョン誌の 10 月号でも特集が組まれ、久しぶりに大腸 CT の現状を皆さんに広報することができました。ご覧になって頂けたでしょうか？私も久しぶりに頭をひねりながら原稿を書いたので、読んでない方がいましたら是非、ご一読願います。

そして、ついこの間の土曜日、平成 27 年 10 月 17 日に北海道自治労働会館の大ホールで第 11 回消化管 CT 技術研究会札幌大会が行われました。私自身は前回で代表を降り、済生会熊本の坂本崇さんに舵取りをお任せしたので、今回は役割がなく北海道の東芝 CT ユーザーの一人として、参加させていただきました。

始めに、放射線医学研究所の松本先生の教育講演がありました。「診断参考レベルと WAZA-ARI」というタイトルで、今をときめく DRL と Web 上で被ばく線量を評価することのできる WAZA-ARI のシステムの紹介です。DRL は F 山さんのレポートにお任せするとして、WAZA-ARI は CT-AEC に対応している、臓器線量が計算できる、他施設と撮影線量の比較ができるなど利点も多く、線量の適正化に向けて利用価値の高いソフトウェアであることを再認識しました。

次にコワモテの札○医大の原○耕○先生の座長による一般演題が始まりました。最初の演題は CTC の受容性と前処置についての報告で、発表していたのは遠く沖縄から来てくれた入職して間もないような可愛らしい女性の技師でした。コワモテの座長に睨みつけられながら思いつき緊張している姿を見て、会場にいる人は「頑張れ、負けるな。」と全員が彼女の味方でした。そこへ座長からの例の「意地悪な質問」と、、、思いきや、優しく内容を紐解いていくような姿勢。「成長したな、赤シャツで山○教○に嘔みついていた頃<sup>1)</sup>とは雲泥の差だ。」会場は臨戦態勢を解き、ホッとした空気に包まれました。

次の演題は倉敷成人病センターの木下さんによる東芝の新しい逐次近似再構成法 (AIDR3D enhanced) についての発表でした。最近はまだ実装されていない FIRST (順投影適用モデルベース逐次近似再構成法) に対す

る期待が高く、議論されることが多いですが、現実には使用されている機能についての評価はユーザーにとってはより重要です。今回の評価法では AIDR3D と enhanced の間に明らかな違いは見いだせなかったようですが、それぞれの特性は把握できる内容でした。

3 演題目は大腸 CT の Dual energy の利用に関する報告です。タギングされた部分をクレンジング処理するとき、CT 値が保持されていない場合にうまく除去できないことがあります。そこを Monochromatic Imaging を用いて、後処理として調整することができるという報告です。第 8 回の仙台医療センターの報告にもありましたが、被ばく低減、前処置法の軽減等も期待でき、Dual energy を効果的に利用できる手法として素晴らしい報告でした。

ランチョンセミナー（省略）を挟んでの午後の一般演題の報告は小腸の 3DCT の報告でした。報告して頂いた吉川俊之先生（消化器内科医、静岡県立総合病院）はこの手技を検討し、全小腸描出率が 70% を超える手法を編み出しています。これは驚くべき数字で、当院でも先駆的に小腸 3DCT を行ってきましたが、当院の方法では全小腸描出は 10% に満たない状態です。かなり専門的な領域であるため実際に施行している施設が少なくあまり注目されないのですが、革新的な技術はいつも日の当たらないところから生まれます。この手法を広めることで小腸疾患へのアプローチはものすごく容易となり、病気の局在を早期に知ることができるようになるでしょう。

一般演題の最後はスクリーニング CTC にて生じた S 状結腸穿孔の症例報告でした。大腸 CT においてカテーテルの操作により腸管を傷つけてしまい穿孔を起こす場合と、もともと脆弱な腸管壁を炭酸ガスの注入により圧力を加えたため穿孔を起こす場合があります。今回の症例は後者の例ですが、検査後数日たってからの来院であり、被験者への周知とともにフォローの体制をしっかりと作っておくことを改めて示された報告でした。

一般演題のコメントを書いているだけでページが埋まってしまったので、さらに濃い内容の後半のタブレット企画、特別講演「達人の目線」「大腸 CT の現状とこれから」については割愛させていただきます。次回第 11 回消化管 CT 技術研究会は平成 28 年 6 月 4 日土曜日、京都

テルサ <http://www.kyoto-terra.or.jp/access.html> で行います。札幌大会に参加した方、忙しくて参加できなかった方も、来年6月京都に集まり、勉強して、そしてちょっとだけ観光しましょう。

注釈1) 赤シャツ事件：詳しくは10年以上前の北海道のCT関係者にお尋ねください。



**11th** CT colonography  
Technologist Meeting

**消化管CT技術研究会 in SAPPORO**

**2015.10.17 Sat 11:00-18:00**

**北海道自治労会館** 〒060-0806 札幌市北区北6条西7丁目5-3

取得予定単位：日本X線CT専門技師 認定機構 ポイント / 肺がんCT検診 認定機構 ポイント

参加費 1,000円

大腸CTを中心とした、消化管画像検査に携わる医療従事者の意見交換とレベルアップを目的とした研究会

**テーマ：The improvement of CTC**

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 11:00~11:10 開会挨拶  | 総合司会 吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)            |
| 1) 11:10~11:40 教育講演<br>共催：東芝メディカルシステムズ (株)                    | 当番世話人 三原嵩大 (東京メディカルクリニック)         |
| 『診断参考レベルとWAZA-ARI』<br>～CT撮影による被ばく線量を評価するWEBシステム～              | 座長：松田勝彦 (済生会熊本病院予防医療センター)         |
| 2) 11:40~12:10 一般演題1  | 座長：原田耕平 (札幌医科大学附属病院)              |
| 3) 12:30~13:00 ランチョンセミナー<br>共催：伏見製薬(株)                        | 座長：山本修司 (国立がん研究センターがん予防・検診研究センター) |
| ～関連メーカー報告～  |                                   |
| 4) 13:15~13:45 一般演題2  | 司会：松井大樹 (北福島医療センター)               |
| 5) 14:00~14:50 タブレット企画『みんなで解析しよう！』<br>共催：堀井薬品工業 (株) 協力：サイオソフト | 司会：吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)              |
|   | 解説：森本 毅 先生 (聖マリアンナ医科大学)           |
| 6) 14:50~15:45 『ワークステーション秋の陣 2015』<br>共催：(株) AZE / アミン(株)     | 司会：鈴木雅裕 (国立がん研究センター中央病院)          |
| ～タブレット連動「解析バトル、～  |                                   |

**エーザイ/エーディアセッション** 共催：エーザイ (株) / エーディア (株)

- |                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 7) 16:00~16:50 講演1<br>『大腸解析、達人の目線』   | 座長：小倉敏裕 (群馬県立県民健康科学大学)<br>山崎通尋 (山下病院) |
| 8) 16:50~17:50 講演2<br>『大腸CTの現状とこれから』 | 座長：坂本 崇 (済生会熊本病院)<br>富松英人 先生 (岐阜大学)   |

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 17:50~17:55 次回当番世話人挨拶 | 吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)    |
| 17:55~18:00 閉会挨拶      | 代表世話人 坂本 崇 (済生会熊本病院) |

**10:30 ~ 17:30 特設ブースにて消化管画像診断に関する機器展示**  
研究会終了後は、恒例「情報交換会」やります！

主催：消化管CT技術研究会 <http://gict-tec.com>  
<http://www.facebook.com/ctcolonography>